

ネットワーク犯罪30件

『世界ハッカー犯罪白書』

10月1日、警察庁はネットワーク・セキュリティ対策室に「コンピュータ犯罪捜査支援プロジェクト」を設置した。これは都道府県警が行うコンピュータ犯罪の捜査を技術的に支援するプロジェクトになる。ついこの間まで、インターネット上をパトロールするサイバーバンク小説みただと思っていたのに、急に現実味を帯びてきた。世界に目を向けると、コンピュータが犯罪に使われることがいかに多くなってきた

ことだろう。「テイクダウン」はミミックの事件の詳細をつづったノンフィクションだった。本書は、捕まったかどうかに関わらず世界中で起きた30の事件を取り上げている。悪戯が原因となったハッキングや、金目当てに行われるクラッキング、情報化社会を憎む爆弾魔ユナボマー(今のところ、ユナボマー自身がコンピュータを使って犯罪をしたわけではない)などのコンピュータ周辺で起こった犯罪全般が取り上げられている。幸い、日本が

舞台となる犯罪は取り上げられていないが、映画や小説のモデルになったような事件が、いつ日本で起きてもおかしくない。読んでみると、現行法では犯罪として立証できない事件がすぐにでも起きそうで、背筋が寒くなる。



セルジュ・ル・ドラン、
フィリップ・ロゼ著
森原透訳
文藝春秋発行
309頁
1800円
ISBN:4-16-352010-4



インターネットの功罪

菊地宏明 Hiroaki Kikutchi

インターネットが経済を変える

『デジタル・エコノミー』

バブル経済がはじけて90年代になると、リストラの嵐が吹き荒れた。各企業は不景気を乗り切ろうと人員削減、ダウンサイジング、アウトソーシングなどの合理化を図り、組織や経営形態を再構築した。これをBPR(ビジネス・プロセス・リエンジニアリング)とも言う。BPRは、急場しのぎでしかなく、そこから光明は見いだせなかった。本書のサブタイトル「ネットワーク化された新しい経済の幕開け」にあるように、インターネットは経済をも刺激した。そこから生まれる新しい経済を本書では、デジタル・エコノミーと呼ぶ。ニコラス・ネグロポンテ氏が「ピーニングデジタル」で描いたインフラがデジタル化される時代を経済の側からとらえたのが本

書である。デジタル・エコノミーのもとで、それぞれのビジネスがどんな意味を持つのかを答えている。インターネットを代表とするこれからの情報基盤を通して変わっていく経済を探る本としては、とてもよくできているだろう。現在、インターネットで行われている状況であるものの、「ピーニングデジタル」ほど将来の予測が書かれていない、それだけ経済は見通しが難しいのだろう。リストラの次の策がたたなければ、読んでみるといいだろう。



ドン・タプスコット著
野村総合研究所訳
野村総合研究所発行
546頁
2300円
ISBN:4-88990-070-5

残された時間は3年余り

『コンピュータ「西暦2000年問題」の衝撃』

1996年6月19日、マイクロソフト社は自社製品の2000年問題の対応についての説明を行った。このプレスリリースなどでこの問題を知った人も多いだろう。今までは、コンピュータのソフトを作成したり利用したりするうえで、日付データを西暦の下2桁で表現することが当たり前のように行われてきた。しかし西暦2000年をもって、下2桁が0から始まることになる。至極当然のことだが、ソフトウェアの設計で、このことを考慮に入れずにつくられたものが数多くあった。入力時にエラーデータとなる場合や、日付計算で誤動作を起こしてしまうものまで現象はさまざまある。北米だけでも、

すでにソースプログラムを失ったり、開発者がいなくなったりして、プログラムの書き換えが困難なソフトが500億ドル相当に上るらしい。この問題を棚上げしたまま2000年を迎えたらどうなるか。第1部ではフィクションとして問題をシミュレーションする。そして、続く2部以降でその原因と解決策を考えていく。単純な問題であるけれども、我々の知らないところにもコンピュータは使われていて意外と根深い。電算関係者には危機感をもって読んでもらって、我々は、突然預金が下ろせなくなったり、電気や電話が止まってしまったらしいことを祈ろう。



足立晋著
実業之日本社発行
204頁
1500円
ISBN:4-408-10208-3

生命力を持ったウイルスの恐ろしさ

『パワー・オフ』

コンピュータウイルスは、自分で増殖しながらデータ破壊やパフォーマンスダウンを起こす悪意を持ったソフトである。ウイルスはファイルを媒体にしてフロッピーディスクや通信を經由して伝染するもので、自らがネットワークを通じて寄生するホストコンピュータを渡り歩くことはない。後者の性質を持ったソフトはワーム（虫）と呼ばれている。ウイルスに対処するワクチンソフトは、ウイルスの持っているデータのパターンを認識して感染しているかどうかを判断するので、もしウイルスがデータのパターンを変異させながら増殖するのなら、ワクチンを作成するのは面倒になる。ワームや変異

型ウイルスは、コンピュータやネットワークに幾度となく脅威を与えてきた。これらを題材にした小説はいくつかあるが、本書では人工生命技術を盛り込むことで、さらにスリリングな内容になっている。かつてLIFEゲームでスクリーン上には生命のシミュレーションが繁栄していた。コンピュータの動作環境下において、あたかも生物が進化するように自分自身を変えながら新たな環境に適応していく人工生命ソフト技術を取り入れたワームやウイルスが、ネットワークに放たれたらどうなるか。現実にかかるかもしれない状況設定はもはやSFとはいえないほどリアルだ。



井上夢人著
集英社発行
372頁
1800円
ISBN:4-08-774199-0

「知らなかった」ではすまされない

『よくわかるマルチメディア著作権ビジネス』

多くの人が、日本では著作権の法律があつて音楽や本などの権利が守られているということをおぼろ気ながらわかつてはいる。しかし、自分のホームページに好きなアーティストの詞を載せることに対して、著作権を意識している人は少ない。それは悪いことだろうと思つても、どう対処すれば正当に利用できるのかわかっている人はほとんどいないだろう。著作権に関する本を探してみても、既存のメディアでの話がほとんどだ。本書は、エンハンスドCDなどの著作権のディレクターやコンサ

ルトantを務めてきた当人が書いているので実用的だ。まず、著作権をとりまく現状が解説され、概要がわかったところでマルチメディアの著作権のQ & Aになる。電子メールで譜面のやりとりをするときに著作権はどうなるか、インターネットトウラジオを行うときの著作権処理は...といった知りたい内容が詰まっている。個人がインターネットを使って情報を発信する放送局になり得る時代だからこそ、著作権を知らないではすまされなくなってくる。大丈夫と思ついても、ホームページオーナーは一度読んでおくとよい。ホームページを置くサーバーがどこの国かによって、著作権管理組織が変わるなんて知つてましたか。



安藤和宏著
リットーミュージック発行
284頁
2800円
ISBN:4-8456-0128-1

JAVAプログラムの教科書

『JAVAクイックリファレンス』

WWWブラウザで使われるJAVA言語の解説本。新しいプログラミング言語であるJAVAの入門書は、すでに何冊もでていますが、プログラマーがデスクサイドに置いて仕事に使える本はまだなかった。ほかのJAVA解説本がプログラミングの参考書ならば、JAVAを開発したサン・マイクロシステムズ社の日本法人の監訳によるこの本は、いわ

ばJAVAの教科書である。基本的にはプログラミングに必要な情報は盛り込まれているが、万人に勧められる入門書とはいえない。1章目が「JAVA入門」となっているが、CやC++プログラマーが読んで理解できる内容で、初めてプログラミングを行おうとする者にはちんぷんかんぷんではないだろうか。プログラマーがプログラミングをするときに文法などを確認するために使う本である。図版がほとんどなく、プログラミング知識があ

ることを前提に書かれている。図版もなく、プログラミング知識がないとわかりづらいとなると、どうしても思われるかもしれないが、そんなことはない。無駄な解説がなく、必要な内容を参照するときには便利にできている。サンプルソースも実用的なリストが掲載されていて参考になる。クイックリファレンスにしてはページ数があるが、使い込むと手放せなくなるだろう。



David Flanagan著
日本サン・マイクロシステムズ(株)監訳
永松健司訳
オライリー・ジャパン発行
発売元オーム社
567頁
4017円
ISBN:4-900900-08-7



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp